様式第７号ア（認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教員養成の目標等に関する書類）

（１）大学・学科の設置理念

①大学

本学は、キリスト教の愛の精神に基づき、真理の探求である研究と教育の一体的推進、およびそれぞれに与えられた使命を成し遂げる力を培うことを建学の理念とし、本学の設立母体であるシャルトル聖パウロ修道女会の創設の精神に則り、「人間の理解と援助」、「社会変化への積極的対応」、および「教育による女性の社会的地位の向上への貢献」を主たる教育理念としている。

本学の設立母体は、17 世紀（1696 年）にフランスに生まれ、以来 300 年余にわたり世界各地で、教育・福祉事業を行っており、日本においては明治 11（1878）年、函館に福祉施設を創始した。現在、学校法人白百合学園は全国に 28 の教育機関を有している。仙台では、私立仙台女学校（明治 26（1893）年）に始まり、戦後には仙台白百合学園幼稚園・小学校・中学校・高等学校を設立し、さらに、仙台白百合短期大学（昭和 41（1966）年）を設置し、女子教育を進めてきた。

平成８（1996）年４月には、人間発達学科と人間生活学科の２学科編成の人間学部として仙台白百合女子大学が創設された。その後、短期大学を昇華統合し、学科の新設・再編等を経て、人間発達学科、総合福祉学科、健康栄養学科、国際教養学科の４学科体制を続けたが、平成 25（2013）年４月に、教員の学内異動による学部再編成に伴い、人間発達学科、心理福祉学科、健康栄養学科、グローバル・スタディーズ学科の４学科を擁する人間学部となった。

各学科ともに、基礎的教養教育の上に専門教育の充実を図り、人間の探求とともに、女子高等教育のあり方・使命について考察している。それは、現代女性として教養や学識、そして探究心を身につけ、健全な人間観、深い知性や豊かな感性を持つ、国家・社会の発展や広く人類の福祉に貢献できる人材の育成をすすめることであり、また、女子学生の主体的な人格形成に重きを置いて教育に努めることでもある。このように、人間性の尊重と人間愛に基づく全人的形成を醸成する本学の教育は、教員養成にとって極めて相応しいといえる。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

＜子ども教育学科＞

子ども教育学科は、「本学の教育理念であるキリスト教の愛の教えに基づき、子どもの成長・発達・教育の支援に強い関心をもち、専門職としての知識・技能を習得させると同時に、幅広い教養や国際感覚、特に心理学や語学、芸術面に秀でた人材を育成し、広く社会に貢献できる人材の育成を目的とする」を、教育研究上の目的、養成する人材像として掲げている。この学科の前身である人間発達学科は、平成８（1996）年の開学以来続いてきた学科であるが、当初の心理学・教育学・社会学の３領域をカバーする学科から、平成 25（2013）年に心理学を心理福祉学科へ、社会学をグローバル・スタディーズ学科へ移行した。以来、教育を主とする学科になったにもかかわらず、人間発達学科という学科名では教育に重点を置いていることが受験生に十分に伝わっていない現状があった。そこで、学科名を子ども教育学科に変更し、従来の幼児教育コースはそのままに、初等教育コースは学校教育コースに変更し、これら２コースから成る子ども教育学科を設置することとした。

幼児教育コースでは、従来どおり、幼稚園教諭一種免許状と保育士資格を取得できるが、加えて認定絵本士やレクリエーション・インストラクターの資格を取得できるようにすることで、本学ならではの特色を出せると考えている。

初等教育コースから名称変更する学校教育コースでは、小学校教諭一種免許状に加え、中学校教諭一種免許状（英語）を取得できるようにする。令和４（2022）年度より小学校高学年におい

て教科担任制が始まるが、かねてより英語に強い小学校教員を養成してきた経緯からも、中学校教諭一種免許状（英語）を加えることで英語力をさらに強化することにも繋がり、時宜を得た新課程設置と考えている。

また、米国カリフォルニア大学アーバイン校への研修旅行や韓国誠信女子大学幼児教育科との交流を通じて、グローバル社会のニーズに対応できる教育者・保育者の育成をめざす。

（２）教員養成の目標・計画

①大学

本学は、設立母体のシャルトル聖パウロ修道女会による教育・福祉活動の長い伝統を引き継ぎながら、建学の精神として「キリストの愛の教えに基づく全人教育を通して、社会に貢献できる子女を育成する」ことを掲げ、「人間の理解と援助」、「社会変化への積極的対応」、「人類の福祉への貢献」を教育理念としている。こうした理念に基づき、教師（教職）は子どもの人間形成に関わる崇高な職業であるとの認識の下に、教員養成を大学の極めて重要な役割のひとつとして位置づけ、「教職への強い使命感をもつ教師」、「人間性豊かな、幅広い教養をもつ教師」、「児童・生徒を深く理解し適切な指導と援助ができる教師」、「教える内容に関する深い知識をもつ学識豊かな教師」、「グローバル社会の多文化理解に優れた教師」を育成したいと考えている。

以上のような教員養成の理念および教師像を実現するために、本学では次のような取り組みを行う。第一に、人間学部の共通科目として設置されている必修科目「キリスト教学」と「人間論」の学びによって、４年間を通じて、人間とは何かを考え、人間と社会のあり方に関する深い洞察と教養を得させる。こうした洞察と教養は、教師という職業を遂行するためには必須のものであり、教師の専門性の前提となるものと位置づけている。第二に、姉妹校である仙台白百合学園幼稚園・小学校・中学校・高等学校との連携・協力関係の構築である。同じ精神を有する姉妹校との連携は、「強い使命感をもつ教師」の育成に有効であると同時に、緊密な連携・協力を通して、教員養成の早い段階からの子どもたちとの接触、体験、充実した実習指導、大学の教員養成への現場教員の協力を可能にし、深い子ども理解と充実した実践的指導力の育成を図ることができると考えている。第三に、人間学部すべての学科の教員代表から構成される教職課程研究センターにより、全学的な視点から教職課程の適切な運営と学生指導を行う。特に、実践的指導力の質的保証を確実なものとするために、適切な授業内容と実施方法を検討している。こうした全学的な体制の下で、各学科の専門性に対応した教職課程を設け、優れた教師の育成を図りたいと考えている。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

＜子ども教育学科＞

子ども教育学科は、本学の教育理念であるキリスト教の愛の教えに基づき、子どもの成長・発達・教育の支援を探究し、専門職としての知識・技能を習得させると同時に、幅広い教養や国際感覚、特に心理学や語学、芸術面に秀で、広く社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。この学科の前身である人間発達学科では、平成 19（2007）年に幼稚園教諭養成課程、平成 25(2013)年に小学校教諭養成課程を設置して、幼稚園教育と小学校教育との接続・連携についての視野をもち、幼児期・児童期の子どもの発達を理解し援助できる教員の養成をめざしてきた。教育学や保育学に加え、心理学や語学、文学等のカリキュラムによって、また教育現場での体験活動や子どもへの継続的なボランティア活動の展開を通じて、幼児期・児童期の子どもについて

多面的に理解できるだけでなく、高いコミュニケーション能力をもった卒業生を送り出してきた。本学科は、この伝統を継承し、専門領域の学習を通じて人間科学としての教育学の基礎を身につけている教員、子どもへの豊かな愛情とヒューマニズムの精神を身につけている教員の育成をめざす。

さらに、中学校教諭（英語）養成課程の新規設置によって、本学科は英語教育をより充実させる。多くのキリスト教主義学校がそうであるように、本学の設立母体も、教育機関としては女性を対象とする語学教育（フランス語と英語）を中心にしてその基盤を形成した。今日、中学校・高等学校は言うまでもないことであるが、学校法人白百合学園が経営する幼稚園・小学校においても、英語教育は柱の一つである。無論、私学教育においては、公教育よりも早期に、充実した形で英語教育を提供することは重要な課題であるが、本学園の場合はなおのこと、衣鉢を継ぐ、本学園の伝統ある教育事業として位置づけられる。そうであるからこそ、前身の人間発達学科においても幼児・児童への英語教育の学習を重視してきたのであり、本学科における英語教育の充実とそこから展開される英語の教員養成は、本学科に課せられた必然の取り組みなのである。

本学科における学びは、教員養成を目的とする学科として教育職員免許法に定められた科目がバランスよく配置されているだけでなく、以下の特徴をもとに構想されている。

・英語教育プログラムの充実

前身の人間発達学科による幼児・児童に対する英語教育のための科目を引き継ぐとともに、中学校教諭（英語）養成課程に関する科目を配し、幼・小・中の一貫した英語教育プログラムを形成している。さらに「児童英語海外教育研修」では、米国カリフォルニア大学アーバイン校との提携によって、児童英語教育の最新メソッドを学ぶとともに、小さな子どものいる家庭においてホームステイを経験することができる。

・学習の目的に応じた多様な選択科目

発展科目群には、学習の目的に応じた多様な選択科目が準備されている。学校種間の接続を意識した「幼保こ小一貫教育論」と「小中一貫教育論」、現代の教育課題に対応する「プログラミング教育基礎演習」や「現代教育課題研究」、関連する資格の取得にもつながる「子どもと絵本」や「レクリエーション実習」などである。さらに「比較教育体験実習」では、韓国誠信女子大学との連携によって日韓の幼児教育の比較研究を行う予定である。

・４年間を通じた少人数教育

１年次の「子ども教育入門」、２年次の「子ども教育基礎演習」、３・４年次の「子ども教育総合演習」によって、学習・研究方法の演習と子どもに関する専門的学習を、４年間を通じて少人数で段階的に進めることができる。

・姉妹校および近隣校との連携

本学の姉妹校である仙台白百合学園幼稚園・小学校・中学校、また近隣の幼稚園や小・中学校と連携し、教育実習だけでなく教育現場に密着した大学４年間の学びを通して、即戦力となる実践的指導力を持った教員の養成をめざす。

（３）認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

＜子ども教育学科・幼稚園教諭一種免許課程＞

東北地方で唯一の４年制カトリック大学である本学は、平成 19（2007）年に幼稚園教諭養成課程を設置し、幼稚園教諭一種免許状取得者を多く世に送り出してきた。この伝統を引き継ぐ子ども教育学科は、幼児の成長・発達を支援する人材を供給し、社会に貢献することができる。

また、初等教育の長年の課題である幼稚園と小学校の連携については、スタートカリキュラム

の活用による幼小接続が提唱されるなど、より重視されつつあるように見える。平成 25（2013）年に小学校教諭養成課程を設置し、幼稚園・小学校の両課程を併置してきた本学科の果たす役割は大きい。

＜子ども教育学科・小学校教諭一種免許課程＞

東北地方において、小学校教諭養成課程を持つ私立大学は多くない。そんななか、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・大学と一貫したカトリック教育を展開してきた白百合学園が、カトリックの教えに基づく特色ある小学校教諭一種免許課程を本学科に設置することの意義は大きい。

また、既存の小学校教諭養成課程は今後も大きな役割を果たさなければならない状況にある。令和３（2021）年１月 26 日の中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」に「義務教育９年間を見通した教師の養成等の在り方」が盛り込まれたことを受けて、同年８月 24 日に教職課程認定基準等が改正された。そのポイントは、複数学科等間の共通開設（複数学科等間の授業科目・専任教員の共通化）、義務教育特例（小学校教諭免許状と中学校教諭免許状の教職課程間の授業科目・専任教員の共通化の範囲の拡大）、小学校課程要件緩和（小学校教諭免許状の教職課程を設置する際の授業科目開設や専任教員配置の要件の緩和）であり、小学校教諭の免許状取得者の増加を目的としているように見える。しかし、小学校教諭の教職課程は教員養成を主たる目的とする学科等でなければ認定を受けることができず、また小学校教諭養成課程では「各教科の指導法」を小学校全教科の指導法について開設することが必要であるなど、小学校教諭養成課程の設置に向けたハードルはそれほど下がっていないと言ってよいだろう。こうした状況の下で、前身の人間発達学科が小学校教諭一種免許状取得者を送り出してきた実績を有する本学への期待に応えるためにも、本学科において引き続き小学校教諭一種免許課程を設置したいと考えている。

＜子ども教育学科・中学校教諭一種免許課程＞

本学には短期大学英語科の時代から数えて 30 年以上にわたる英語教育ならびに英語の教員養成の歴史がある。その伝統を直接に受け継ぐのは本学グローバル・スタディーズ学科であるが、同じ人間学部に設置された学科として連携を図ることによって、本学科においてもグローバルな視野と教育現場に強い実践力をもつ教員の養成に発展させていくことができると考えている。

また、前身の人間発達学科が重視してきた幼児・児童に対する英語教育の学習との相乗効果が考えられる。上述の中教審答申では、「義務教育９年間を見通した教科担任制の在り方」として「小学校高学年からの教科担任制の導入」が提唱された。その後も教科担任制に関する議論は続けられ、外国語は必ずその対象となっている。教員採用選考（小学校）における英語に関する加点措置ももはや定着しつつある。英語に強い小学校教諭を養成する必要性はますます高まるであろう。本学科では、小学校と中学校の教科および教科の指導法に関する科目に加えて、発展科目群で「児童英語概論」や「児童英語教授法演習」、「Listening Comprehension」などの英語教育関連科目を充実させ、さらに「小中一貫教育論」などを配することによって、人間発達学科が築いてきた土台を生かしながら、英語を中心に小学校と中学校の接続を深く理解し実践に活用できる教員を育成する。

Ⅰ．教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

（１）各組織の概要

①全学的組織

組織名称：	教職課程研究センター
目　　的：	本学の教員養成の理念および基本方針に基づき、教職課程の改善および充実を図るとともに、学生が将来教員としての資質能力を主体的に形成していくことができるように支援することを目的とする。審議事項は、教職課程の企画・運営・調整や教育実習・介護等体験の実施に係る調整などについてである。
責 任 者：	センター長
構成員（役職・人数）：	センター長（1 名）、センター員（教職課程設置学科の「教職に関する科目」等の担当教員各 2 名程度、教務課職員 2 名程度）
運営方法：	センターの運営に関する事項を協議するため、センター会議を置く。センター会議は、センター長及びセンター員で組織し、センター長が主宰する。センター会議は、原則として月 1 回開催とし、教職課程の企画・運営・調整、教職課程や教員養成に関する調査研究、教育実習・介護等体験の実施に係る調整、学外諸機関との連携などを議事とする。教職課程の運営に関する事務は、教職課程設置学科と教務課で協議の上、分担する。センターに関する事務は、教務課において処理する。

②各学科等の組織（幼稚園教諭一種免許課程）

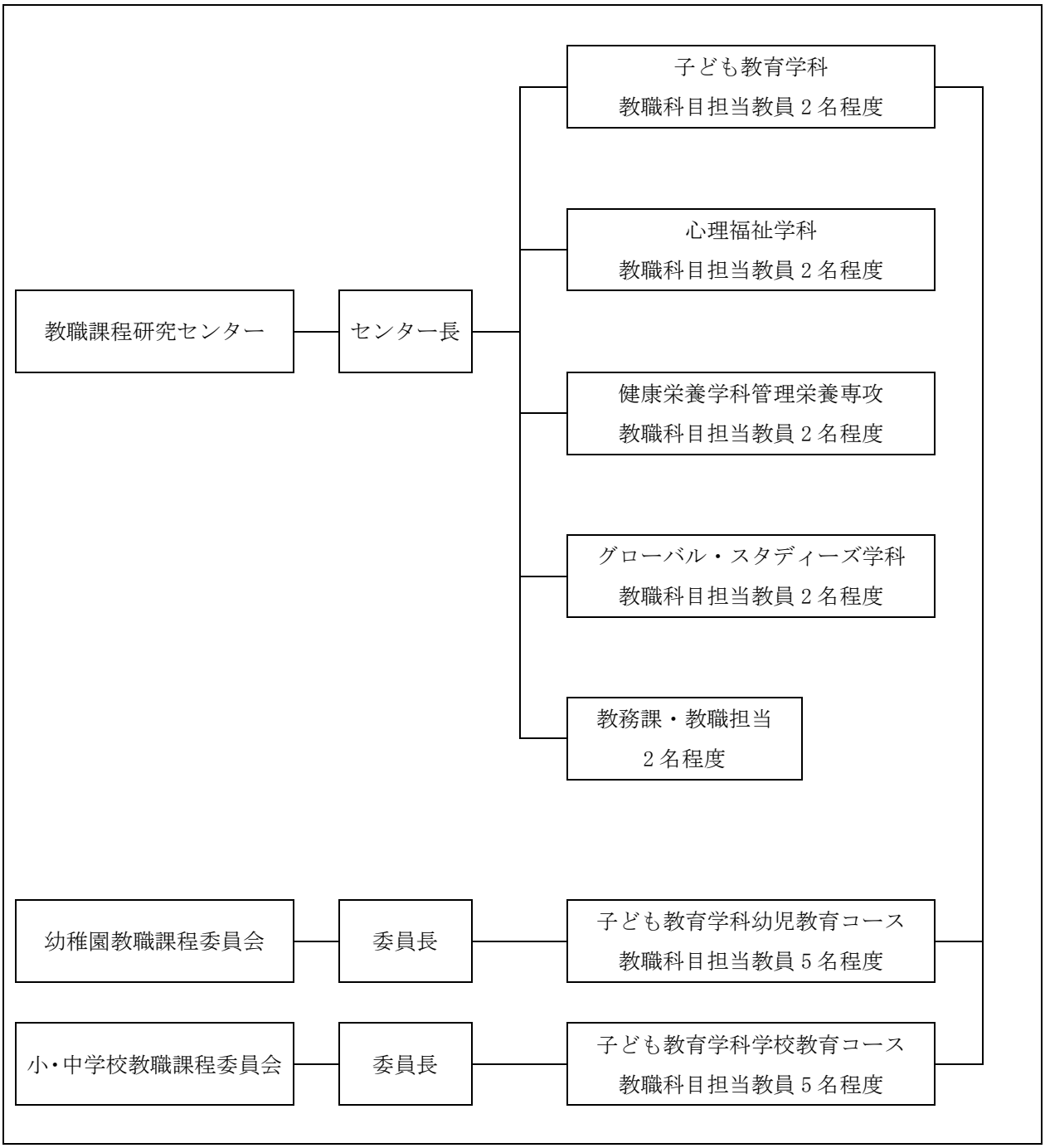
組織名称：	幼稚園教職課程委員会
目　　的：	子ども教育学科の教員養成の理念および基本方針に基づき、幼稚園教職課程の改善および充実を図るとともに、学生が将来幼稚園教員としての資質能力を主体的に形成していくことができるように支援することを目的とする。審議事項は、幼稚園教職課程の運営や幼稚園教育実習の実施に係る調整などについてである。
責 任 者：	委員長
構成員（役職・人数）：	委員長（1 名）、委員（幼稚園教職課程科目担当教員 5 名程度）
運営方法：	幼稚園教職課程委員会は、委員長及び委員で組織し、委員長が主宰する。委員会の会議は原則として月 2 回開催され、幼稚園教職課程の企画・運営、幼稚園教諭一種免許状取得希望学生への指導、幼稚園教員養成にかかわる調査等を議事とする。会議で検討された内容は、子ども教育学科の会議および教職課程研究センターのセンター会議に報告される。必要に応じ、教職課程研究センターと連携しながら、全学的な教職課程の運営にも携わる。

③各学科等の組織（小学校教諭一種免許課程・中学校教諭一種免許課程）

組織名称：	小・中学校教職課程委員会
目　　的：	子ども教育学科の教員養成の理念および基本方針に基づき、小・中学校教職課程の改善および充実を図るとともに、学生が将来小・中学校教員としての資質能力を主体的に形成していくことができるように支援することを目的とする。審議事項は、小・中学校教職課程の運営や小・中学校教育実習、介護等体験の実施に係る調整などについてである。
責 任 者：	委員長

構成員（役職・人数）： 委員長（1名）、委員（小・中学校教職課程科目担当教員5名程度）
運営方法：小・中学校教職課程委員会は、委員長及び委員で組織し、委員長が主宰する。委員会の会議は原則として月2回開催され、小・中学校教職課程の企画・運営、小・中学校教諭一種免許状取得希望学生への指導、小・中学校教員養成にかかわる調査等を議事とする。会議で検討された内容は、子ども教育学科の会議および教職課程研究センターのセンター会議に報告される。必要に応じ、教職課程研究センターと連携しながら、全学的な教職課程の運営にも携わる。

（2）（1）で記載した個々の組織の関係図



Ⅱ．都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

（1）教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

特になし

（2）学校現場における体験活動・ボランティア活動等

取組名称：	仙台市教育委員会「学生サポートスタッフ事業」
連携先との調整方法：	仙台市教育委員会教育指導課と本学学生課が連携し、学生サポートスタッフとしての本学学生の登録・派遣に関する事務、派遣開始前の研修会を担当している。
具体的な内容：	ボランティアとして仙台市立学校に派遣された本学学生が、各教科、総合的な学習の時間、特別活動、道徳等における指導補助、放課後や休み時間等における児童・生徒の話し相手、部活動指導補助などに従事する。

Ⅲ．教職指導の状況

教職課程の運営に係る全学的組織である教職課程研究センターが、『教職課程履修要項』の作成や教職課程のガイダンスを実施し、各学科のセンター員が履修指導や各種相談を担当する。各学科における免許状取得希望者の単位取得や教育実習･介護等体験の準備･実施など教職指導の状況は、センター会議を通じて共有される。これに加えて、子ども教育学科では、教員養成を主たる目的とする学科であり、専任教員のほとんどが「教職に関する科目」等の担当教員であることから、学科内の組織である幼稚園教職課程委員会と小・中学校教職課程委員会が中心となって、学科全体が教職課程研究センターと連携しながら教職指導を担う。

子ども教育学科の学生は、1 年次の終わりにコースを選択し、2 年次より幼児教育コースと学校教育コースに分かれて、それぞれ幼稚園教諭一種免許課程および小・中学校教諭一種免許課程に所属する。そこで、1 年次に 2 度実施するコース紹介で教職課程について説明するとともに、コースが決定した時点で、学科内の各教職課程委員会による詳細なガイダンスを実施する。履修指導や各種相談については、各クラスのアドバイザーが窓口となって対応し、各教職課程委員会および学科会議で情報を共有する。成績不振による単位未取得やコース変更による科目未履修など、免許状の取得に向けて履修科目に注意を要する学生については、アドバイザーから慎重に指導する。各種相談については、必要に応じて各教職課程委員会の委員長や学科長との面談を設定する。

様式第７号ウ

＜子ども教育学科＞（認定課程：幼一種免）

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	幼稚園教諭の基礎的教養として日本国憲法、健康とスポーツ、情報処理概論等の教養科目を履修し、幼稚園教諭としての基礎的能力を身に付ける。また幼稚園教諭の専門性の土台となる専門科目として教育学概論や保育者論等の授業を通して、幼稚園教諭が果たすべき役割についての基本的な理解をもつ。
	後期	幼稚園教諭の基礎的教養としての教養科目を履修し、幼稚園教諭としての基礎的能力を身に付ける。また、保育内容五領域の中の人間関係や言葉についての演習を通して、幼稚園教諭として必要な教育・保育の基礎知識や基礎技能の基本を身に付ける。さらに、幼稚園一日観察を実施し、幼稚園の１日の流れを理解し、そこでの子どもの活動、幼稚園教諭の役割の実際について理解を深める。
2年次	前期	専門科目の授業等を通して、子どもの心理的発達の理解を深め、保育内容五領域の科目（健康、環境、表現）や保育内容の指導法（人間関係、言葉）を履修し、幼児教育・保育の指導に関する知識・技能等を習得する。また、保育の計画についても学び、保育の記録や計画の意義について理解を深める。
	後期	専門科目の授業等を通して、幼稚園教育の制度の理解を深め、保育内容の指導法（健康、環境、表現）等の科目を履修し、音楽、造形、身体の表現など、幼児教育・保育の指導に関する知識・技能等を習得する。また、保育の計画について演習を通して学び、保育の記録や計画の作成方法を身に付ける。さらに、幼稚園一日観察を実施し、子どもの観察方法や保育の記録の仕方について体験的に学び理解を深める。
3年次	前期	専門科目の授業等を通して、幼稚園教育の教育課程や教育相談についての理解を深め、子どもを理解や援助の方法について学ぶ。また、指導の授業等において、記録や指導計画の書き方、保育教材製作等について学ぶとともに、保育実習の事前・事後指導、また実習の経験を踏まえ、模擬保育等を実施し、後期の学外での教育実習に備える。
	後期	教育実習の事前指導、幼稚園での実習の経験を通じて、子どもの理解を深め、効果的な指導法や子どもと関わるための技能の研究を行う。実習後の事後指導では、実習の振り返り・省察を行い、学生自らの課題を明らかにし、その課題解決に向けた取り組みを行う。また、ゼミナールを通じて、幼児教育における科学的知見の理解に努めるとともに、課題を見つけ、ゼミ生同士で議論しながら、解決方法を志向する姿勢を身に付ける。
4年次	前期	専門科目の授業等を通して、子ども理解や子どもへの効果的な援助・指導法や教育方法について、これまでの教育実習・保育実習の経験を踏まえ、より具体的、実践的に理解を深める。また、ゼミナールを通じて、子どもや保育者、保護者とのコミュニケーション技術等の研究を行うことによって、保育・教育の現場における実践的な支援・指導ができるようになる。
	後期	4年間の学びや実習を振り返り、幼児教育・保育に求められる資質能力や実践力を、保育・教職実践演習を通じて理解し、自身の指導力の実際や教職・保育職に対する考え方について総括できるようにする。また、ゼミナールを通じて、身に付けた知識や技能を統合し、自らの得意分野を生かし、課題解決に主体的・協働的に取り組む。

様式第７号ウ

＜子ども教育学科＞（認定課程：小一種免）

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	小学校教諭の基礎的教養として日本国憲法、健康とスポーツ、情報処理概論等の教養科目を履修し、小学校教諭としての基礎的能力を身につける。また、小学校教諭の専門性の土台となる専門科目として教育学概論等の授業を通して、教育学の概念や知識についての基本的な理解をもつ。さらに、学校見学を通じて小学校教育の基本を体験的に理解する。
	後期	小学校教諭の基礎的教養としての教養科目を履修し、小学校教諭としての基礎的能力を身につけるとともに、教職論等の授業を通して、教師の魅力を探るとともに、教師についての基本的な理解をもつ。また、小学校の教科について、目標を理解し、その内容に関する基礎的知識を身につける。さらに、学校現場の観察・体験を通じて、キャリア形成への意識を持つ。
2年次	前期	専門科目の授業等を通して、心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解するとともに、小学校の教科および教科の指導法に関する科目を履修し、教科の目標・内容に関する基礎的知識と授業の構想力と実践力を身につける。また、教師の視点にたって学校現場を体験し、児童・教員への理解を図る。
	後期	専門科目の授業等を通じて、教育活動を支える教育行政について理解するとともに、教科の指導法に関する科目を履修し、学習指導要領に基づく学習指導案の作成と模擬授業の実践から授業の構想力と実践力を身につける。また、学校現場での体験活動を通じて、小学校教育への理解を深めるとともに、めざす教師像を明確にする。
3年次	前期	専門科目との授業等を通して、教育課程や教育相談、生徒指導・進路指導についての理解を深めるとともに、道徳や総合的な学習の時間、特別活動について学び、その特質を踏まえた実践的な指導力を身につける。また、教育実習の事前指導等において、身につけた知識や技能を確認し、模擬授業等を実施して教育実習に備える。
	後期	専門科目の授業等を通して、特別支援教育や教育の方法と技術、情報機器や教材の活用について理解を深める。教育実習を通じて、授業やさまざまな教育活動における実践力を身につけるとともに、教育実習の事後指導等において、教育実習を振り返り、課題とそれを克服する方法について理解する。また、子ども教育総合演習（ゼミ）を通じて、学校教育における科学的知見の理解に努め、課題の解決方法を志向する姿勢を身につける。
4年次	前期	専門科目の授業や教育実習の経験等を通して、児童理解や児童への効果的な援助・指導法、学級経営について、より発展的に理解し、問題意識を深めるとともに、教科教育についてより専門的に考察し、学習指導、教科指導について実践的に理解する。また、教育ボランティアとしての活動を通じて、具体的な児童への指導について理解する。
	後期	4年間の学びを振り返り、教員としての素養について改めて確認するとともに、小学校教諭としての指導力を高め、職務の理解を深める。また、達成状況を踏まえて、自己研鑽に努め、教員として求められる資質や能力のさらなる向上をめざす。さらに、ゼミ活動を通じて、身につけた知識や技能を統合し、自らの得意分野を生かし、課題解決に主体的・協働的に取り組む。

様式第７号ウ

＜子ども教育学科＞（認定課程：中一種免（英語））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	中学校教諭の基礎的教養として日本国憲法、健康とスポーツ、情報処理概論等の教養科目を履修し、中学校教諭としての基礎的能力を身につける。また、中学校教諭の専門性の土台となる専門科目である教育学概論等の授業を通して、中学校教諭が果たすべき役割についての基本的な理解をもつ。さらに、比較文化論の履修を通して異文化理解の視点を養う。
	後期	中学校教諭の基礎的教養としての教養科目を履修し、中学校教諭としての基礎的能力を身につける。また、教職論を履修し、教職の意義及び教員の役割について理解する。さらに、英作文や英文講読の履修を通じ、英語の基礎的技能を高める。
2年次	前期	専門科目の授業等を通して、子どもの心理的発達の理解を深める。また、オーラル・コミュニケーションを履修して、コミュニケーション能力とは何かを理解する。さらに、学校教育基礎演習を通じて、教科教育に関する基礎的・基本的な知識・技術を身につけ、自らが目指す教員像を明確にする。
	後期	専門科目の授業等を通して、教育行政を学ぶ。中等英語教育法で中等の授業実践について理解を深め、授業を行うための必要な知識やスキルを身につける。同時に、アメリカの文学を履修し、英語の知識や教養をさらに深める。
3年次	前期	専門科目の授業等を通して、教科指導及び教育相談に対応するための基礎的理解をはかる。教科に関する演習を通じ、教材研究能力の向上をはかる。English Grammar、英作文、英会話、イギリスの文学等の履修により、英語の知識・技能をさらに高める。
	後期	専門科目の授業等を通して、学習指導、児童・生徒の発達について、より発展的に理解する。教育とICT活用の履修を通じて、最新のICTを活用するための実践力を身につける。教科に関するより専門的な考察を実施することで、英語授業についての認識を深め、模擬授業などを行って、教科指導を実践的かつ発展的に理解する。
4年次	前期	専門科目の授業等を通して、教員としての資質能力を深化させる。生徒及び学級経営の発展的な理解をもとに自己の資質や能力などを意識して教員としての意義を深める。English Linguisticsの履修を通じて、英語を単なる一外国語としてではなく、言語学的側面から学び、英語教育に生かせる語学の幅広い視点を養う。
	後期	4年間の学びを振り返り、集大成として自己課題・現代の教育課題について自律的に取り組む。教職実践演習により、教員としての自覚を高め、英語教員として教育現場の課題に取り組む認識を高める。

様式第７号ウ（教諭）

＜子ども教育学科＞（認定課程：幼一種免）

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		保育内容の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			領域に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第６６条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	B	教育学概論		保育学概論	日本国憲法	子ども論
		2	C	保育者論		音楽入門	健康とスポーツA	
						ピアノ入門A	情報処理概論	
	後期				子どもと人間関係	ピアノ入門B	健康とスポーツB	幼児教育基礎演習A
					子どもと言葉	造形入門		幼児教育基礎演習B
2年次	前期	1−1	A	保育内容（人間関係）	子どもと健康	保育の計画と評価	オーラル・コミュニケーションⅠ	ピアノＩＡ
		1−1	A	保育内容（言葉）	子どもと環境			
		2	E	教育・学校心理学	子どもと音楽			
					子どもと造形			
	後期	1−1	A	保育内容（健康）		指導法の研究	オーラル・コミュニケーションⅡ	保育の心理学
		1−1	A	保育内容（環境）				ピアノＩＢ
		1−1	A	保育内容（表現（音楽））				
		1−1	A	保育内容（表現（造形））				
		1−1	A	保育内容（表現（身体））				
		2	D	教育行政学				
3年次	前期	1−1	A	保育内容総論				ピアノⅡ
		2	G	教育課程論				
		3	O	子どもの理解と援助				
		3	M	教育相談				
		4		教育実習の事前事後指導（幼稚園）A				
	後期	2	F	特別支援教育論				
		3	K	教育方法論				
		4		教育実習の事前事後指導（幼稚園）B				
		4		教育実習（幼稚園）				
4年次	前期					発達障害論		幼保こ小一貫教育論
	後期	4		保育・教職実践演習（幼稚園）				保育表現演習

様式第７号ウ（教諭）

＜子ども教育学科＞（認定課程：小一種免）

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	B	教育学概論	小学校英語		日本国憲法	子ども論
							健康とスポーツA	英語Ⅰ
							情報処理概論	
	後期	2	C	教職論	小学校国語		健康とスポーツB	英語Ⅱ
		5	A	初等教科教育法（英語）	小学校算数			
					小学校理科			
					小学校生活			
2年次	前期	1	A	初等教科教育法（国語）	小学校社会		オーラル・コミュニケーションⅠ	学校教育基礎演習A
		1	A	初等教科教育法（算数）	小学校音楽			ピアノＩＡ
		1	A	初等教科教育法（理科）	小学校図画工作			
		1	A	初等教科教育法（生活）	小学校家庭			
		2	E	教育・学校心理学	小学校体育			
	後期	1	A	初等教科教育法（社会）			オーラル・コミュニケーションⅡ	学校教育基礎演習B
		1	A	初等教科教育法（音楽）				児童英語概論
		2	A	初等教科教育法（図画工作）				ピアノＩＢ
		3	A	初等教科教育法（家庭）				
		4	A	初等教科教育法（体育）				
		2	D	教育行政学				
3年次	前期	2	G	教育課程論				教科教育研究演習
		3	H	道徳教育の指導法				現代教育課題研究Ⅰ
		3	I	総合的な学習の時間の指導法				教育評価の理論と方法
		3	J	特別活動の指導法				児童英語教授法演習
		3	LN	生徒指導・進路指導論				ピアノⅡ
		3	M	教育相談				
		4		教育実習の事前事後指導（小・中）A				
	後期	2	F	特別支援教育論				教科教育実践演習
		3	Q	教育方法論				現代教育課題研究Ⅱ
		3	R	教育とICT活用				プログラミング教育基礎演習
		4		教育実習の事前事後指導（小・中）B				
		4		教育実習（小・中）				
4年次	前期				English Linguistics			幼保こ小一貫教育論
	後期	4		教職実践演習（小・中）				小中一貫教育論

様式第７号ウ（教諭）

＜子ども教育学科＞（認定課程：中一種免（英語））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	B	教育学概論	English Pronunciation		日本国憲法	子ども論
					比較文化論		健康とスポーツA	英語Ⅰ
							情報処理概論	
	後期	1	A	中等英語教育法Ⅰ	英作文Ⅰ		健康とスポーツB	英語Ⅱ
		2	C	教職論	英文講読Ⅰ			
2年次	前期	1	A	中等英語教育法Ⅱ			オーラル・コミュニケーションⅠ	学校教育基礎演習A
		2	E	教育・学校心理学				
	後期	1	A	中等英語教育法Ⅲ	アメリカの文学		オーラル・コミュニケーションⅡ	学校教育基礎演習B
		2	D	教育行政学				児童英語概論
3年次	前期	1	A	中等英語教育法Ⅳ	English Grammar			教科教育研究演習
		2	G	教育課程論	イギリスの文学			現代教育課題研究Ⅰ
		3	H	道徳教育の指導法	英作文Ⅱ			教育評価の理論と方法
		3	I	総合的な学習の時間の指導法	英会話Ⅰ			児童英語教授法演習
		3	J	特別活動の指導法	Listening Comprehension			
		3	LN	生徒指導・進路指導論				
		3	M	教育相談				
		4		教育実習の事前事後指導（小・中）A				
	後期	2	F	特別支援教育論	英文講読Ⅱ			教科教育実践演習
		3	Q	教育方法論	英会話Ⅱ			現代教育課題研究Ⅱ
		3	R	教育とICT活用				
		4		教育実習の事前事後指導（小・中）B				
		4		教育実習（小・中）				
4年次	前期				English Linguistics			
	後期	4		教職実践演習（小・中）				小中一貫教育論